

# トカラ列島平島の昆虫調査記録

—バッタ目を中心として—

畑田 健治\*

Insects of Taira-jima, Toshima-mura, Kagoshima Prefecture,  
surveyed in October, 1990

Kenji Hatada

筆者は1988年10月にトカラ列島の中之島、1989年10月に口之島でバッタ目を中心とした調査を行った。その結果、オンブバッタ科、バッタ科、イナゴ科などで、不明瞭なこの地域での分布を明らかにしつつある。今回、平島の同時期のバッタ目を調査し、6科13種の生息を確認したので報告する。あわせてこの時採集した他の昆虫6目も報告する。なお、バッタ目の分類は日浦（1978）に、その他は日本産昆虫総目録（1989 九州大学農学部昆虫学教室、日本野生生物研究センター 共同編集）に従った。

また、今回の調査に際して、多大なご協力をくださった平島小・中学校の川畑利夫校長先生はじめ各先生方に改めて感謝の意を表する。

## 1. 平島の概況

平島はトカラ列島西部3島の1つで、諏訪之瀬島の西約15km、北緯29°41′、東経129°32′に位置する。標高242.9mの御岳を最高峰とする面積1.99km<sup>2</sup>、周囲4.5kmの小島で、名前にそぐわず急峻な海岸線を持つ。平坦地はわずかに島の南西部にみられ、そこに集落（37世帯、74人、1991年1月31日現在）と山地からの湧水を利用した水田がある。島全体がリュウキュウチクに被われ、ピロウ群落が点在し、わずかにタブ、イタジイなどの照葉樹林が御岳の西側（集落の北東側）に存在する。

## 2. 調査の日程

1990年10月24日 7:30、平島・前の浜港に到着。天候曇り時々晴れ。9:00より調査開始。9:00～10:50学校裏から溜め池周辺。11:00～12:00はえのはま一帯。12:35～14:00学校裏の畑および刈り取りの済んだ田んぼ。14:10～16:00ひがしのはま。17:00～18:00 溜め池で灯火採集の準備と腐肉トラップの設置（5カ所）。19:00～21:00溜め池（灯火による採集）。

10月25日 天候曇り時々雨。9:30～10:00学校裏から溜め池周辺。\*10:10～10:40神社周辺。11:00～12:10へりポートでコドラートによる調査。15:36平島・前の浜港出発。

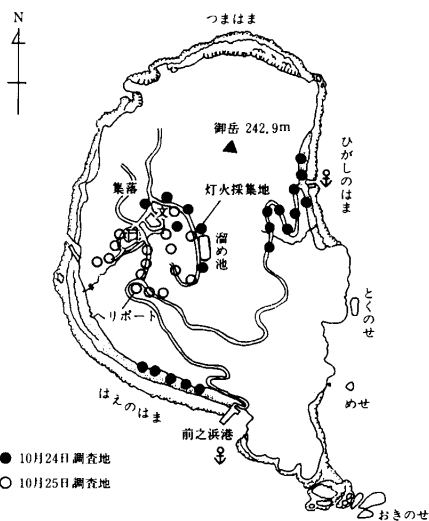


図1 調査地点概略図

（平島小学校岡村清教諭作成原図を利用した。）

\*鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

## 3. 調査結果

10月24, 25日の調査の結果, バッタ目6科13種を含め, 7目23科50種(ただし1991年2月現在同定済みのみ……ゴミムシ類を主としたコウチュウ目とチョウ目のガ類の一部が残っており, これらは次の機会に報告したい)の昆虫の生息を確認した。なお, 腐肉トラップでは, 雨にたたられたこともあってかサソリモドキ(クモ形類)しか採集できなかった。

## (1) バッタ目の記録

## キリギリス科

クビキリギリス *Euconocephalus thunbergii* (Stal, 1874) 1♂ 1♀ x-24

民宿の前の刈り取りの済んだ水田で, イネ科の雑草が繁茂している中を歩いて追い出し, 採集した。

タイワンクツワムシ *Mecopoda elongata* (Linnaeus, 1758) 1♂ x-24

日暮れと同時にリュウキュウチクの竹藪のいたるところで鳴き出した。鳴き声から推測するとかなりの数が生息していると思われる。採集した個体は鳴き声を頼りの目視つかみどりである。

ホシササキリ *Conocephalus maculatus* (Le Guillou, 1841) 1♂ x-24

学校の裏の田んぼのあぜをスウィーピングして採集。

コバネササキリ *Conocephalus japonicus* (Redtenbacher, 1891) 1♂ x-24

学校の裏の田んぼのあぜをスウィーピングして採集。

## コオロギ科

ハラオカメコオロギ *Loxoblemmus? arietulus* Saussure, 1877 1♂ x-24

溜め池の土手の枯れ葉の積もったところを掻き分けて採集。他に多数の個体を確認。

タンボコオロギ *Velarifictorus parvus* (Chopard, 1928) 1♀ x-24 (灯火)

溜め池の横での灯火採集時に灯火に飛び込んできた。

## オンブバッタ科

オンブバンタ *Atractomorpha lata* (Motschulsky, 1866) 1♂ 2♀ x-24, 1♂ 1♀ x-25

10月24日は学校の裏のサツマイモ畑で採集。10月25日は溜め池近くの田んぼのあぜで採集。

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha Psittacina* (de Haan, 1842) 1♀ 後翅淡色型 (仮称)

学校の裏のサツマイモ畑で採集。 x-24

## イナゴ科

ツチイナゴ *Patanga japonica* (Bolivar, 1898) 1♂ x-24

ひがしのはまへの道のハチジョウススキにとまっていたのを採集。

タイワンツチイナゴ *Patanga succincta* (Linnaeus, 1763) 2♂ x-24

ひがしのはまへの道のハチジョウススキにとまっていたのを採集。

タイワンハネナガイナゴ *Oxya chinensis formosana* Shiraki, 1937 7♂ 3♀ x-24, 1♂ x

10月24日は各採集地で採集できた。10月25日神社近くのミズイモ畑で採集。個体数は普通。

## バッタ科

トノサマバッタ *Locusta migratoria* Linnaeus, 1758 3♂ 1♀ x-24

学校裏の刈り取りの済んだ田んぼで採集。個体数は普通。

マダラバッタ *Aiolopus tamulus* (Fabricius, 1798) 4♂6♀ x-24, 1♂ x-24 (灯火)

10月24日は各採集地で採集できた。はえのはまでは、海岸のすぐ上がリュウキュウチクを切り払った牧場になっていて特に個体数が多かった。

**ヒシバッタ科**

ハネナガヒシバッタ *Euparatettix insularis* Bei-Bienko, 1951 1♂ x-24, 1♂ x-25

10月24日ははえのはまで採集。10月25日は集落の道で採集。いずれもスウィーピングによる採集。

ヘリポート脇の草地で1㎡の植物群落コドラート調査に便乗して、その範囲のバッタ目を調査した。

**採集したバッタ目**

**バッタ科**

マダラバッタ *Aiolopus tamulus* (Fabricius, 1798) 3♂1♀ x-25

ショウリョウバッタ *Acrida cinerea* (Thunberg, 1815) 2♀ (幼) x-25

**オンブバッタ科**

オンブバッタ *Atractomorpha lata* (Motschulsky, 1866) 1♂3♀ x-25

アカハネオンブバッタ *Atractomorpha psittacina* (de Haan, 1842)

1♀ 後翅淡色型 (仮称) x-25

**コオロギ科**

タイワンエンマコオロギ *Teleogryllus taiwanemma* (Ohmachi et Matsuura, 1951)

1♂3♀ x-25

なお、植物群落コドラート調査の結果は下記のとおりである。

**調査地** 平島・ヘリポート脇

**調査年月日** 1990年10月25日

**調査者** 立久井 昭雄

**出現種**

- リュウキュウチク, タカサブロウ, チガヤ,
- ハイキビ, メヒシバ, スズメノコビエ, シバハギ,
- コニシキソウ, ツボクサ, エノキグサ

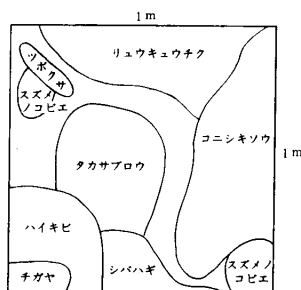


図2 調査地の植生図 (立久井昭雄)

平島の調査結果のまとめに当たっては、これまでの口之島、中之島の調査などから出てきたトカラ列島における分布上の諸問題を、①オンブバッタ科の分布……中之島付近にオンブバッタの南限とアカハネオンブバッタの北限があるのではないかという問題 (1990 筆者提唱), ②イナゴ科の未調査による分布の問題, ③バッタ科の未調査による分布の問題に絞って整理を急いだ。そして、今回得られたバッタ目をもとに、オンブバッタ科、イナゴ科、バッタ科の鹿児島県における分布一覧を作成した (表1)。他の科については、整理が進んでいないので次の機会にまわした。

まず、①の問題点であるが、オンブバッタの採集によって、中之島と予想した南限をさらに低緯度へさげることとなった。アカハネオンブバッタ後翅淡色型 (仮称) の採集は、中之島で確認された (1988 筆者) アカハネオンブバッタ後翅淡色型 (仮称) と同じものであり、北限を中之島とす

る仮説の貴重な資料となり、他の中之島以南の島々の調査がさらに重要なものとなった。②については、タイワンハネナガイナゴの採集は奄美大島から口之島までの分布を予想するのに十分であり、分布の北限を口之島付近とみる（筆者）根拠の1つとなった。また、1989年の口之島調査で見つかったオキナワイナゴモドキは、その食草であるミズイモやサトイモの畑があるにもかかわらず、生息を確認できなかった。③については、分布の空白或であったショウリョウバッタ、トノサマバッタ、マダラバッタの生息を確認し、これらの種が県本土から奄美諸島まで広く分布している様子を裏付ける資料となった。

表1 鹿児島県におけるオンブバッタ科、イナゴ科、バッタ科の分布

●これまでの調査及び標本による確認 ▲文献による確認 ○今回の調査による確認

種名	地域名	三島村			種子島	屋久島	トカラ列島							奄美諸島							
		本土	黒島	硫黄島			竹島	口之島	中之島	臥蛇島	平島	諏訪之島	瀬石島	小宝島	宝島	奄美大島	喜界島	徳之島	沖永良島	与論島	
オンブバッタ科	オンブバッタ	●			●	▲	●	●									▲				
	アカハネオンブバッタ									○							●		●		
イナゴ科	ハネナガイナゴ	●	●	●	●	▲											▲				
	タイワンハネナガイナゴ						●	●		○					●	●					
	コバネイナゴ	●			▲	▲								▲	▲						
	タイワンコバネイナゴ																●				●
	オキナワイナゴモドキ				●		●										●				
バッタ科	ショウリョウバッタ	●	●	●	●	▲		●		○				●	●		●		●		●
	ショウリョウバッタモドキ	●			●										●	●					▲
	トノサマバッタ	●	●	●			●			○				●	●						●
	グルマバッタ	●																			●
	イボバッタ	●		●																	
	アカアシバッタ	●																			
	マダラバッタ	●	●	●	●	▲		●		○			●	●		▲		▲			●
	ツマグロイナゴモドキ	●																			●
	ナキイナゴ	●																			
	ヒナバッタ	●				▲															
ヒロバネヒナバッタ	●																				
ヤマトマダラバッタ	●																				

## (2) その他の採集昆虫の記録

## ゴキブリ目

## マダラゴキブリ科

サツマゴキブリ *Opisthopteria orientalis* (Burmeister, 1838)

1頭 x-24

## トンボ目

## トンボ科

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius, 1798)

1♂ x-24 (灯火)

## イトトンボ科

リュウキュウベニイトトンボ *Ceragrion latericum ryukyuanum* Asahina, 1967

1♂ x-25

アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842)

1♂ x-25

## カメムシ目

## カメムシ科

アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott, 1874

7頭 x-24 (灯火)

イチモンジカメムシ *Piezodorus hybneri* (Gmelin, 1789)

1頭 x-24 (灯火)

チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i> Scott, 1874	2 頭	x-24 (灯火)
<b>ヘリカメムシ科</b>			
オオクモヘリカメムシ	<i>Anacanthocoris striicornis</i> (Scott, 1874)	1 頭	x-24 (灯火)
<b>オオホシカメムシ科</b>			
オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i> (Burmeister, 1834)	14 頭	x-24 (灯火)
ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta cincticollis</i> Stal, 1863	1 頭	x-24 (灯火)

**チョウ目 (チョウ類)****シジミチョウ科**

ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i> (Menetries, 1857)	1 ♂	x-24	1 ♂ 1 ♀	x-25
--------	--	-----	------	---------	------

**シロチョウ科**

モンシロチョウ	<i>Pieris Artogeia rapae crucivora</i> Boisduval, 1836	1 ♂	x-25
ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta betheseba</i> (Janson, 1878)	秋型 1 頭	x-24

**セセリチョウ科**

イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i> (Bremer et Grey, 1852)	2 頭	x-24, 2 頭	x-25
----------	---	-----	-----------	------

**マダラチョウ科**

アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i> (Moore, 1883)	3 ♀	マーク放蝶 (K 7, 8, 9)	x-24
--------	---	-----	-------------------	------

**ジャノメチョウ科**

クロコノマチョウ	<i>Melanitis phedima oitensis</i> Matumura, 1919	1 頭	x-24
----------	--	-----	------

**チョウ目 (ガ類)****ヒトリガ科**

カクモンヒトリ	<i>Thanatarctia inaequalis inaequalis</i> (Butler, 1879)	4 頭	x-24 (灯火)
---------	--	-----	-----------

スジモンヒトリ	<i>Spilarctia seriatopunctata seriatopunctata</i> Motschulsky, 1861	1 頭	x-24 (灯火)
---------	---	-----	-----------

ハイイロヒトリ	<i>Cretonotos transiens vacillans</i> (Walker, 1855)	11 頭	x-24 (灯火)
---------	--	------	-----------

**ヒトリモドキガ科**

キイロヒトリモドキ	<i>Asota egens confinis</i> Rothschild, 1897	2 頭	x-24 (灯火)
-----------	--	-----	-----------

**ヤガ科**

オオタバコガ	<i>Helicoverpa armigera</i> (Hubner, 1808)	2 頭	x-24 (灯火)
--------	--	-----	-----------

クロキシタアツバ	<i>Hypena amica</i> (Butler, 1878)	1 頭	x-24 (灯火)
----------	------------------------------------	-----	-----------

ミツモンキンウワバ	<i>Acanthoplusia agnata</i> (Staudinger, 1892)	5 頭	x-24 (灯火)
-----------	--	-----	-----------

アサケンモン	<i>Platapplecta pruinosa consanguis</i> (Butler, 1879)	1 頭	x-24 (灯火)
--------	--	-----	-----------

シロナヨトウ	<i>Spodoptera mauritia acronyctoides</i> (Gunenee, 1852)	2 頭	x-24 (灯火)
--------	--	-----	-----------

ハスモンヨトウ	<i>Spodoptera litura</i> (Fabricius, 1775)	6 頭	x-24 (灯火)
---------	--	-----	-----------

アカエグリバ	<i>Oraesia excavata</i> (Butler, 1878)	1 頭	x-24 (灯火)
--------	--	-----	-----------

ハガタクチバ	<i>Daddala lucilla</i> (Butler, 1881)	1 頭	x-24 (灯火)
--------	---------------------------------------	-----	-----------

ユミモンクチバ	<i>Melapia electaria</i> (Bremer, 1864)	5 頭	x-24 (灯火)
---------	---	-----	-----------

## スズメガ科

ホシホウジャク <i>Macroglossum pyrrhosticta</i> Butler, 1875	1頭	x-24 (灯火), 1頭	x-24
ヒメクロホウジャク <i>Macroglossum bombylans</i> Boisduval, 1875	1頭	x-24 (灯火)	
クロホウジャク <i>Macroglossum saga</i> Butler, 1878	2頭	x-24 (灯火)	

## メイガ科

ワタヘリクロノメイガ <i>Diaphania indica</i> (Saunders, 1851)	3頭	x-24 (灯火)	
マエアカスカシノメイガ <i>Palpita nigropunctalis</i> (Bremer, 1864)	3頭	x-24 (灯火)	
マメノメイガ <i>Maruca testulalis</i> (Hubner, 1832)	9頭	x-24 (灯火)	
シロオビノメイガ <i>Hymenia recurvalis</i> (Fabricius, 1775)	5頭	x-24 (灯火)	

## コウチュウ目

## テントウムシ科

オオフタホシテントウ *Lemnia (Lemnia) biplagiata* (Swartz, 1808) 1頭 x-25  
 今回、過去に全く記録のない、ツマグロキチョウとクロコノマチョウを採集したが、これが偶産なのか土着なのか、今後の採集記録を待ちたい。

## 参考文献

- 九州大学農学部昆虫学教室, 日本野生生物研究センター 共同編集, 1989, 日本昆虫総目録  
A check List of Japanese Insects, 九州大学農学部昆虫学教室, 福岡
- 日浦 勇 1978 1センチ以上の昆虫誌7, バッタ〔1〕Nature Study 24(10): 24-28
- 1979 1センチ以上の昆虫誌8, バッタ〔2〕Nature Study 25(1): 6-8
- 1978 鳴く虫 第5回特別展「鳴く虫」解説: 42-43, 大阪市立自然史博物館
- 大城安弘 1986 琉球列島の鳴く虫たち 鳴き虫会 沖縄
- 山下秋厚 1981 鹿児島県の直翅目 その分布の概要 SATSUMA 30 (85): 173-196
- 1985 秋に鳴く虫 南海日日新聞(名瀬市) 記事再編集
- 伊藤修四郎, 奥谷禎一, 日浦 勇 1981 原色日本昆虫図鑑 下巻 保育社 大阪
- 浜田 康, 井上 清, 1985 日本産トンボ大図鑑 第1巻図版編, 第2巻解説編, 講談社 東京
- 石田昇三, 石田勝義, 小島圭三, 杉村光俊 1988 日本産トンボ幼虫・成虫検索図鑑  
東海大学出版会 東京
- 井上 寛ほか 1982 日本産蛾類大図鑑 Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392  
講談社 東京
- 鹿児島大百科事典編纂室 1981 鹿児島大百科事典: 635 南日本新聞社 鹿児島
- 迫 静男, 福島善浩 1985 平島の植物 鹿児島大学農学部演習林報告 No.13: 179-199
- 畑田健治 1989 鹿児島県産のイナゴ属 (*Oxya*) 形態的特徴と分布 (第1報)  
鹿児島県立博物館研究報告 第8号: 11-16 鹿児島県立博物館
- 1990 鹿児島県のバッタ目の分布 (第1報)  
鹿児島県立博物館研究報告 第9号: 14-17 鹿児島県立博物館